文化生活部
bunka@kumanichi.co.jp
TEL:096-361-3181 FAX:096-361-3290

近況

想像力かき立てる曖昧さ

画家　小谷 佳恵さん(30)＝あさぎり町

ブルーグレーの色が印象的。静けさと曖昧さが漂う作品は時がたつのを忘れそうになる。「見る人が考えたり、感じたりする余地や隙間を残した絵を描いているんですよね。結果的に」。語る言葉にもどこか余韻がある。

あさぎり町出身。2014年に崇城大大学院芸術研究科美術専攻を修了。東京の画廊で初個展も開いた。修了後は地元に戻り制作を続けながら、福岡や佐賀、人吉などのグループ展に出品。熊本で初となる今回の個展は、過去5年間に描いた心象画の油彩6点(6～30号)を並べる。

椅子の脚の間から見えるつま先を描いた「氷点I」は、氷のような床面の色や質感などマチエール(絵肌)にこだわった。「まなざし」はカーテン越しに後ろ姿の女性がたたずむ。タイトルが指すものが鑑賞者の視線なのか、女性の目線なのか、曖昧であるが故に画面の奥の「物語」へと想像力をかき立てられる。

熊本で初の個展を開く小谷佳恵さん。静けさを感じる油彩は描かれたモチーフの奥の「物語」を想像したくなる
＝熊本市中央区

「自分とそれ以外」「内と外」「こちら側と向こう側」…。境界性を意識するからか、カーテンや扉、窓など、作品のモチーフには遮るものが登場する。「日常にある境界線を受け入れつつ、そこを曖昧にすることで、他者に近づいていきたいし、近づいてきてほしいと思っている」

小谷さんにとって、描くことは感じたことを整理する時間でもある。「なぜ描くのか」。そんな問いを抱えた制作は「ぜいたくだし、好き。淡々と描く中で日常が保たれる感じがする」という。

(魚住有佳)

※小谷佳恵個展「矩形のしじま」は11月10日まで、熊本市中央区九品寺のホテル「RESTERS BED&CO.」で。